



# てるちゃんの あしもみのひみつ

## 1 ページ

あるところに、「てるちゃん」という  
にこにこえがおの おねえさんがいました。

てるちゃんは にほんじゅうをめぐりながら、  
「あしもみせいたい」をしています。

## 2 ページ

「いたいの いたいの、とんでけ〜♪」

てるちゃんは あかちゃんから おじいちゃん、おばあちゃんまで、  
みんなを にこにこにする あしもみの たつじんです。

### 3 ページ

きょうも、ひまわりの さく まちに やってきました。

まっていたのは、げんきのない はるくんです。

### 4 ページ

「はるくん、こんにちは。あしのうら、ちょっと さわらせてね」

てるちゃんは やさしく はるくんの あしを もみもみ。

### 5 ページ

「あれ？はるくん、すこし おなか つかれてるかな？」

「なんで わかるの??」

「ふふふ、あしうらには からだやこころの ことが ぜ〜んぶ うつつてるんだよ」

### 6 ページ

「このへんは おなか」

「ここは め」

「そして ここは……こころの つかれが わかるところだよ」

てるちゃんの ゆびは、まるで おひさまみたいに あたたかい。

### 7 ページ

「いたっ……でも きもちいい……」

はるくんは ふしぎな きもちに なりました。

いたいのこころが ぽかぽか してくるんです。

## 8 ページ

もみおわると、

「わ～！からだが かるくなった！」

「おなかも すいたし、なんだか わらいたくなってきた～！」

はるくんは おおきく のびをしました。

## 9 ページ

それをみていた まちのみんなが てるちゃんのところに あつまりました。

「つぎは わたし！」

「ぼくも～！」

「ひざが いたいんだけど、なおるかしら？」

## 10 ページ

てるちゃんは にっこり ほほえんで いいます。

「たいようの ひかりみたいに、

あしもみで こころとからだを あかるくできたら うれしいな」

## 11 ページ

ひまわりのように みんなの えがおが ひらきました。

てるちゃんの あしもみは、まちに げんきの おひさまを とどけていきます。

## 12 ページ

「からだのなやみも、こころのもやもやも、あしうらに ヒントがあるんだよ」

つぎは どの まちへ いこうかな？

てるちゃんの あしあとが、そっと つづいていきます。